# 平和行進に託して願うこと

三川指導部　古賀　茂

七月二十七日、原水禁世界大会の成功をめざして大牟田を出発した平和行進に、三池労組から五人の代表が参加した。なかに毎年のように歩き続けてきた、三川指導部の古賀茂さんがいる。

古賀さんは周知のように、九・二八坑内火災によるCO被災者だが、同被災後療養を余儀なくされた数年間と、世界大会に参加した年を除き、平和行進にはほとんど参加してきたという。

熊本や福岡まで歩いた経験もあって、熊本へは大牟田―玉名―山鹿―菊池―熊本の順に、また福岡をめざしたときは大牟田―船小屋―久留米―二日市―福岡となっていて、前後四日間にわたる行進だったとか。

いま、これまで行進したことをふり返りながら、古賀さんは感慨をこめて語った。

## すべてを奪う戦争
## 〝平和〟こそ宝です

×

何といっても長い年月のこと、つくづく時代の流れを感じさせます。

なるほど、原水禁運動・平和を守る闘いへの市民の認識こそ、年々確実に強まっています。その反面、行進に車を利用することが多くなって、県によっては車が歩くことに代わってしまい、歩くことを通じてのアピールが自然少くなっています。少くとも、都市や町くらいはやっぱり従来通り歩いてのアピールがほしいです。

いま、人びとは戦争を忘れかけています。それどころか、戦争を知らない人間が年ごとにふえていることが思いだされ、こうやって毎年参加してきているわけです。一人でも多くの市民に、平和の尊さ、戦争は絶対に反対すべきものだ、特に核の拡大は許してならない、ということをわかってもらいたい、それが平和行進に参加する私の願いです。

がたいものか、食べものがどんなに大切なものか、まったく知らないといってよいでしょう。私はそのため、はかり知れない苦しみを身をもって味わってきた者です。

それに私は、長崎の上空で爆発したあの原爆の光を、小浜社宅からこの目で直接見ております。

平和こそ宝です。絶対に、二度と奪われてはなりません。それは人間の自由も、生存権も、いな、すべてを失うことにもなるからです。いま私の体調は、決してよくはありません。でも、不思議にその日がくれば、自然平和行進のこるときです。これらの人びとは、人間にとって自由がどれほどあり

※　※

# 30方30時間残業
## ――よーく考えて見よう！
### 新聞〝はぐるま〟（三川）から

これは三川指導部坑外職場新聞〝はぐるま〟（七月二十三日発行）が伝えた、職場での対話。

×

先月の給料日のことである。

「○○しゃん、いくらあった」

「ウン、手取り十万八千円やった」

「アレ、少かねエ。で、何方出勤やった？」

「二十五日と、残業は二十時間しとるよ」

「フーン、あんまりでとらんやったね」

「うっ。ウーン」

皆さん、これどう思いますか。

いま坑外では、二十九、三十日出勤、残業三十時間が普通の状態です。そうしなければ、食われんのです。

また、操業日数だけ働いても、満勤したようにいわれません。

私たちはここまで、会社の低賃金でこき使われ、追いこまれているのです。

皆さん！　ひと月を三十方三十時間残業で生活するのと、二十五方（操業日だけ）残業なしで生活するのとどちらが良いか、選んで見ませんか。欽ちゃんのコマーシャルではないけれども、どちらが得かよーく考えてみよう。

## 暑い！
### 何とかしてくれ

三川鉱本層六十卸東十片巻立・十一片は、四十二度から四十三度で暑い。

十一片は切羽造りのための緊急工事とかで、尻をたたいて作業をやらせている。

風管先は三十度以下だが、道中ではとっても仕事はできん。係長さんよ、仕事を急がせるのなら、道中の温度を下げてくれんな。体がもてんばな。

夏場対策については毎年毎年会社に申し入れているが、毎年毎年同じことのくり返しである。会社は働く者の身になって、早急に改善してもらいたい。金をかければできることだ。（三川指導部七分会新聞〝あせ〟から）

# 組織の統一をめざし頑張っています

愛知　梅本　猛晴

暑中お見舞い申し上げます。

日頃貴労組におかれましては、労働者の〝生命と権利〟を守るべく先進的にご奮闘されていることに、心より敬意を表します。

参議院議員選挙も終って改めて私たち労働者・勤労国民をとりまく情勢の厳しさを、知らされた思いであります。

さて、七七春闘と同時にかけられたところの当支部における組織攻撃、および合理化攻撃に対して、貴労組よりご心配と、思いがけないご支援、激励を賜わり、感激に耐えませんでした。

おかげさまで、少数組合ながらも会社・第二組合の攻撃の一定の歯止めに成功し、かえって組織の団結を強化することができました。六月十日には、一連の攻撃との闘いの中間総括の意味を含めて支部主催で〝団結集会〟を行ないました。悪天候にもかかわらず全金の仲間、地区労の仲間、社青同、まなぶの仲間ら四百余名もの参加があり、大成功のうちに終えることができました。改めて組合員と家族一同、仲間との連帯と団結のすばらしさをかみしめております。

今日では百一名もの希望退職者がでて、全金は少数組合ながら職場での比重が高まり、会社の対応も慎重になり、職場も平静に戻っていますが、合理化のあとは当然ながら労働強化が押しつけられている状態です。

また、第二組合の組織内の矛盾が拡大しており、私たちにとっては有利な状況が生じてきています。今後も、組織の統一をめざして頑張っていく決意です。

私たちにとって貴労組の運動はまさに目標であり、長期抵抗路線にまなびながら闘いを進めているところです。支部組合員のお礼の気持を、と思い寄せ書きを送らせていただきますので、受けていただければ幸福に存じます。

ありがとうございました。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻いただきますようお願い致しますとともに、貴労組、および組合員ご一同様のご健闘とご発展を心より期待しております。

×

梅本さんは、全国金属労働組合ホウトク支部の執行委員長という重責を負いながら闘っていられます。全国金属労組ホウトク支部は、その基盤の企業本社が「愛知県小牧市上末字東山三五〇九」で去る五月十六日会社から組合に「安城工場閉鎖・首切り（七十二人）」の合理化が提案され、以後闘ってきました。

すでに本紙の〝北から南から〟欄で簡単ながらその闘いを紹介したのでしたが、従業員四百五人（うち全金労組員が七十九人）の椅子やテーブルなどの製造・販売をしている企業です。闘いの成果に対し、心からおよろこび申しあげます。今後ともがんばってください。

※　※

写真上は、全金ホウトクの団結集会。下は贈りものの寄せ書き。ともに梅本さんから戴いた。